

■ 明石クリーンセンター敷地内

明石クリーンセンター（大久保町松陰）の第2期メガソーラー（大規模太陽光発電所）事業として、センターの空き地約1万9千平方メートルに民間事業者によるメガソーラーが整備される



明石クリーンセンター第1期メガソーラーの完成予想図（市提供）

ことになった。大阪ガスの子会社と市の共同事業方式による「第1期」と合わせた出力は計2・7メガワットとなり、市は収益をこみ処理施設整備のために新設する基金に積み立てる。

第1期は、市が用地を握り、大阪ガスの子会社「エナジーバンクジャパン」が

（つ）を設置するという。

同社は自社の遊休地などに出力計760キロワットのメガソーラーを稼働させているほか、今年9月には北海道で7メガワット規模のメガソーラー完成を予定している。

市は第1期の収益を約1200万円と見込み、エナジー社と折半する。これに第2期の使用料と、明石クリーンセンターのこみ発電

収益は施設整備基金に

メガソーラーの設置や電気事業者との契約を行う共同事業方式。一方、第2期では市が事業者に用地を貸し、使用料を徴収する。

による売電増収分を「一般廃棄物処理施設整備基金」に積み立てる。

市はこのほど、第2期の事業者を機械部品加工会社「きしろ」（天文町2）を代表とする共同事業体に決定した。使用料は年額350万円、太陽光パネル4200枚（出力規模約1メガ

2013年度の積み立て予定額は5300万円。同センターの供用開始から13年が過ぎており、市は基金を新たなこみ処理施設の建設や既存施設の長寿命化対策などの財源にすると

いう。

（森本尚樹）